田川議員（公明党）

平成 26 年 12 月 11 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）教員採用試験の競争率の低下等について

教師は５０歳代が最も多く，これからも大量退職が続き，都道府県で新人の取り合いが始まるのではないかと思う。全国的に教員採用試験の競争倍率は年々低下を続けているが，最低でも３倍はないとだめだという意見もある。

本県の教員採用試験の実施状況を調べると，今から１０年前の平成１７年度の小学校の倍率は５．６倍であったが，来年度採用の倍率は２．６倍と下がっている。同様に，中学校は１０年前の１２．５倍が４．６倍になっており，高等学校は１０年前の１９．８倍が９．３倍となっている。養護教諭，特別支援学校も含めた全体の倍率は，１０年前の９．２倍から４．１倍に下がっているが，優秀な人材確保という観点からは，倍率が高いことが望まれる。

中学校や高等学校も大幅に競争倍率が下がっている現状について，どのように評価しているのか，また，県内県外を含めて優秀な人材を集めるためにどのような方針を持っているのか，併せて伺う。

（答）

本県におきましては，志願者数は大きく変化しておりませんが，近年採用者数を増やしていることから，競争倍率が下がっているところであり，課題であると考えております。

そこで，より多くの優秀な人材を確保するため，平成２５年度から受験案内の配付時期を１か月程度早めるとともに，東京，大阪を含め全国１５か所で採用試験説明会を開催するなど，積極的に広報活動を行っているところでございます。

引き続き，ホームページ等を通じて，本県教育について積極的に情報発信するとともに，県内外の大学との連携を図りながら，より多くの受験生の確保に努めてまいります。